日本と共通する政治課題

ぐんま日独協会設立15周年記念

ドイツ訪問団報告

鈴木　克彬

ぐんま日独協会（平形義人会長）は、設立15周年を記念して北ドイツの古都ブラウンシュバイク市で5月末開催の独日協会総会に出席するため、ドイツを訪問しました。その一部を報告します。

訪問団は、会長以下15人。宿泊は中部のフランクフルト市、北部のブラウンシュバイク市、南部のミュンヘン市の3市で、各市とも同じホテルに3連続宿泊しました。現地での交流・交歓を多く行うとともに、自由時間を増やすなどオリジナルな企画を盛り込みました。

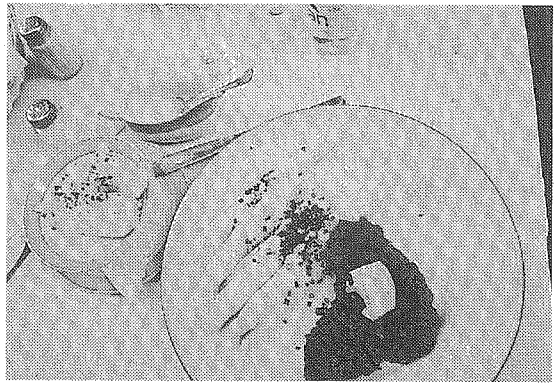
なお、総会には高島有終駐独大使をはじめ、ドイツでご活躍の日本女性（国際結婚された）も多く参加されていました。

高島有終駐独大使を囲んで（ブラウンシュバイク市）

■昭和村出身

フランクフルト市の繁華街ボッケンハイマー通りでSOBA・SOBAというドイツ人向きの日本食店を経営している清水恭代さん（旧姓関上、利根商高・昭和50年卒業）を全員で訪ねました。清水さんをはじめお店の人たちは大喜びで我々を迎えてくれました。

ドイツでは、うどん・そば・寿司などの日本食は、ヘルシーな料理として大変好評とのこと。なお当地では、お茶や水はすべて有料です。改めて気安く「お茶」「お水」と言えないことに気がつきました。



◀季節の料理、ホワイトアスパラ（ミュンヘンにて）

■厳しい財政

ドイツの人たちと面談、交歓していて分かったことは、現在の日本で発生している多くの問題点が、ドイツでも同じ課題で悩んでいることでした。例えば少子高齢化・製造業の国外移転・年金医療制度の破綻・教育レベルの低下など、ほとんど日本と同じだと感じました。

一方ドイツでは、物品に16%の消費税をかけています。さらにマルクからユーロに切り替えたため、多くのドイツ人は物価が上がったと感じています。しかしこの高い消費税に対して私のお付き合いした人達は、〝高齢者福祉や年金・医療等のために高くなったのだから仕方がない〟と割り切っているのには、驚きました。

■仕事を選ぶ

失業率が10%と高い上、失業の手当も高額なのがドイツの特徴の一つです。しかし、これでは国の財政が回って行かず、現在、制度改正に取り組んでいるとのことでした。

その一方、最近のドイツ人は、ゴミの回収・仕分けとか、季節労働で深い土の中から腰をかがめて丁寧に掘り出すアスパラガス作業など苦労の多い仕事は敬遠し、その仕事を外国人労働者に押し付ける傾向があるとのこと。失業対策との絡みで、現在、政治課題になっていると聞きました。

■環境対策は

苦しい財政事情の中でも、環境先進国といわれるドイツは、クリーンエネルギーの推進・自然環境の保護・ゴミの減量化・公共交通の利用促進等の地球温暖化防止対策については、法律を整備し、補助金を拡大するなどの積極策をとっていました。

特に気づいたことは、明日の地球を守るためには、今日の生活の中で、少々の我慢は当然という国民のコンセンサス（合意）が存在していることでした。

（ぐんま日独協会事務局長）

少子高齢化や失業など

メッセ Messe

市場のおじさんと

。日本では、好きな部位を
のが当たり前。丸ごと1羽
むしられた首のない冷凍物
を買うのが当たり前のこの
説明するには語学力が足り
買ったことがないから分か
しまった。
日本のようなスーパーマー
う思うだろう。冷蔵ケース
された肉を見ても、「部位
倒だ」「頭や脚はどこで買
聞かれるかもしれない。

お寄せください。
d.ne.jp

ホストファミリーを募集　東南アジア青年の船

群馬青
は、内閣
青年の船
を訪れる
ファミリ
参加国
ネシア、
ナム、ブ
フィリピ
カンボジ
日（2泊
来県する
内15家庭
組の受け
「東南ア
化社会に
性を発揮
目的とし
際交流事
国の青年
国事情の
と理解を
締め切り
い合わせ
部会の藤
3274